

2018年12月23日(日)朝10:10～ 主の待降節第4、
12月第4降誕日共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：マリヤは、男子の初子を産んだ

聖書：ルカ 2章1～7節

<口語訳>

旧約聖書85頁

ルカ 2章1～7節

<新共同訳>

旧約聖書102～103頁

ルカ 2章1～7節

<新改訳第3版>

旧約聖書109頁

ルカ 2章1～7節

<塚本訳>

新約聖書 ～ 頁

(全節を朗読)

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き
によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇新約聖書の**ルカ福音書**は、**神の民の救い**を神の福音として告げた書です。

◇本日は**クリスマス待降節第4主日**です。

⇒「**ルカ福音書2章1～7節**」が、牧会手帳で指定された「**待降節4主日**」の使信で、**ルカ福音書1章26～34節**で御使いガブリエルが遣わされて、**ルカ福音書1章31節**で「**見よ、あなたは子をさずかり、男の子が生まれる。その名をイエスとつけよ**」の御告げの通り、**ルカ福音書2章7節**、マリヤは、「**初子を産み、産着にくるんで飼葉桶に寝かせた**」預言的使信の実現の箇所です。

◇「**ルカ福音書1章**」では、**祭司ザカリヤ**初め、多くの人たち、殊に**エリサベツ**による男の子の誕生とマリヤの受胎告知、「**イエス**」と名付ける命令とマリヤの讃歌が記録され、他の福音書に比べ記録が詳細です。

⇒名前に意味があり、「**マリヤ**」は、「強い」、「**イエス**」は、ヘブル語の「**ヨシュア**」の音訳で「**主は救い**」という、「**キリスト**」を指し示す名前です。

本論；

◇本日、ルカ福音書2章1～7節から主の使信に思い・心vousをとめます。

◆ルカ2章1～7節 処女マリヤが、「主は救い」の意味をもつ、男子の初子を「御使い」が現れ、マリヤに告げられた通り、出産しました。

◇塚本訳 ルカ2:1～7; イエスの誕生

「1 そのころ、全(ローマ)帝国の人口調査の勅令が皇帝アウグストから出た。

2 これは(ローマ政府)第一回の人口調査で、クレニオがシリアの総督であったときに行われたものである。

3 すべての人が登録を受けるために、それぞれ自分の(生まれた)町にかえった。

4 ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上った。彼はダビデ家の出、またその血統であったからである。

5 すでに身重であった妻マリヤと共に、登録を受けるためであった。

6 するとそこにおる間に、マリヤは月満ちて、

7 初子を産み、産着にくるんで飼葉桶に寝かせ

た。宿屋には場所がなかったのである。」と、ルカは記録しています。

◇ 1～5節；「そのころ、全(ローマ)帝国の人口調査の勅令が皇帝アウグストから出た」、「これは(ローマ政府)第一回の人口調査で、クレニオがシリアの総督であったときに行われたものである」、「すべての人が登録を受けるために、それぞれ自分の(生まれた)町にかえった」、「ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上った。彼はダビデ家の出、またその血統であったからである」、「すでに身重であった妻マリヤと共に、登録を受けるためであった」と、ルカは、なぜヨセフとマリヤが故郷ベツレヘムに帰ったかを記しています。人口登録のためで、当時の支配者ローマ政府が課税をするためであったことが分っています。

⇒どの時代でも、「政府」は、人間集団を支配し、税金を課すもので、永遠の神を認める政治と認めない政治では、政策が異なって来ます。

⇒時の政治は、民から搾取するものでしたから、民にとって「暗闇」の世界のものでした。

- ◇6～7節；「するとそこにおる間に、マリヤは月満ちて」、「初子を産み、産着にくるんで飼葉桶に寝かせた」、「宿屋には場所がなかった」と、ルカは、マリヤの置かれた状況を描いています（「客間には彼らのいる余地がなかった」）
- ⇒「宿屋には場所がなかった」ことを、KK師は、「文語訳『**旅舎**(はたごや)にをる處なかりき』とあるは**旅舎**が込み合って居った事と見るよりも、その借受けた家の部分に**適当な場所がなかった事を意味**し、又揺籠や寢床が無かった爲に手近の馬槽(うまぶね)を利用したものと考へられる。」と、理解しておられる。
- ⇒KK師は、**ルカ福音書9章58節**を引用、『狐には穴あり、空の鳥は埒(ねぐら)あり、されど人の子には枕するところなし』、「實に彼はその誕生に際して既に此の世に彼を容るゝ處なく、而して遂には十字架上に露と消え給うた。此の事實は此の世が神に叛ける罪人の國である事の實相を示して居り、此の世に容れられなかった彼こそ眞に神の子たる事の事實を表徴して居るものと見る事が出来る。」と、当時の世を描いておられます。

⇒「**宿屋(旅舎)には場所がなかった**」と、マリヤは、お産のために「**適当な場所がなかった**」のですが、**ルカ福音書9章58節**のように、「人の子には枕するところなし」で、この世・現在の生活社会では、「人の子には枕するところなし」と言われるほど、主イエス・キリスト様は、見えない形で、愛と真実を尽くして下さっているのに、「**適当な場所がなかった**」と言う仕業で、神に「**心の適当な場所**」を用意できないのです。

⇒神なき社会では、忘年会、各種の慰労会等で、「**心の適当な場所**」を提供していると思っています。教会も、同じような仕業で、「**心の適当な場所**」を提供している場合が多いのです。

⇒マリヤにも、主イエス・キリスト様にも、「**心の適当な場所**」は、心が休まる場所こそそれです。イベントは、心と心を通わせる良い機会です。併し、心の内奥では、常に主の霊との会話を保ち続けたいと願います。

⇒**ゼパニヤ3:12**、「【口語訳】わたしは柔和にしてへりくだる民を、あなたのうちに残す。彼らは主の名を避け所とする。」

結論；

◇**神**は、昔も今も、変わらず愛の神、思いやりの神です。

◇「**ルカ福音書2章1～7節**」は、**ルカ福音書1章26～34節**で御使いガブリエルが遣わされて、**ルカ福音書1章31節**で「**見よ、あなたは子をさずかり、男の子が生まれる。その名をイエスとつけよ**」の御告げの通り、**ルカ福音書2章7節**、マリヤは、「**初子を産み、産着にくるんで飼葉桶に寝かせた**」預言的使信の実現の箇所です。

⇒併し、「**ルカ福音書2章7節**」では、「**宿屋には場所がなかった**」、「**適当な場所がなかった**」とも、記録されています。

⇒「**ルカ福音書9章58節**」では、「**人の子(主イエス・キリスト様)には枕するところなし**」とあり、「**適当な場所がなかった**」のです。

⇒私たちは、「**心の適当な場所**」をマリヤにも、主イエス・キリスト様にも、用意していません。

⇒その時では、遅く、「**飼葉桶**」しか提供できず、「**適当な場所**」とは言えない場所を提供することになります。「**心の適当な場所**」も準備を。